

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	コロナ禍にある小児看護学領域における学内実習の評価と静岡県立こども病院看護部との連携				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	山下 早苗
	研究分担者	所属・職名	看護学部・准教授	氏名	鈴木 和香子
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	池田 麻左子
		所属・職名	静岡県立こども病院・教育担当副看護部長	氏名	小澤 久美
	発表者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	山下 早苗

講演題目

コロナ禍にある小児看護学領域における学生評価と実習施設（静岡県立こども病院）との情報共有

研究の目的、成果及び今後の展望

研究の目的

新型コロナウイルス（COVID-19）感染症が、看護基礎教育に及ぼした影響は大きい。看護師は国家資格を有する専門職であり、看護基礎教育においては「対人関係能力」「コミュニケーション能力」「倫理的能力」「臨床判断能力」「看護実践能力」を培う必要があり、臨地実習は必要不可欠な科目である。しかしながら、静岡県の感染流行に応じて臨地での実習受け入れが中止となり、学内実習にせざるを得ない状況が度々ある。

本研究の目的は、コロナ禍にある小児看護学領域における学内実習について評価し、卒後教育への示唆を得ることである。

成果及び今後の課題

今年度の小児看護学実習は、学生が2回のワクチン接種を行っていたことから、所定の期間（2週間）、通常通りの臨地実習を行えた学生が74名（60%）であった。なお、静岡県に「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」発令があると実習施設での受け入れが中止となり、学内実習になった学生が49名（40%）であった。学内実習では、臨地実習に代わる必要な学修を担保するために、教員・学生による模擬患者・家族の設定をし、子どもや家族とのコミュニケーション技術や関係性作りを学ばせた。また、DVD教材を活用した小児看護の思考過程や外来・低出生体重児の看護を学ばせた。更に、病棟看護師参加によるwebカンファレンスを開催し、学生が小児看護実践に関する助言を得られるように工夫した。学内実習における学生の満足度は、5段階評価（1:全当てはまらない、5:非常に当てはまる）で4.7点と高かった。また、「病院実習を行いたかったが、病院実習でなかなか聞きづらいことをwebカンファレンスで自由に看護師さんに聞くことができ、学内実習でしか学べないこともあった」という感想もあり、ある程度の満足度と達成度が得られた。しかし、3年生の臨地実習は学生にとって進路選択する上で重要な実習となっており、「実習は、やはり1日でも臨地に行きたかった」という声が多かった。臨地実習でしか学ぶことができない学習に、『人間の五感を通してキャッチされる臭いや、その場の空気感』『乳幼児の啼泣といったリアリティ』『倫理的な課題が生じている場合の医療者の苦悩を知る場』『看護専門職として働くイメージを作る場』『看護実践能力を吟味する機会』『社会人として基礎能力を培う場』がある。これらの学習内容を十分に学ぶことができなかった看護学生であることを、実習施設と情報共有し、卒後教育に向けた示唆を得る必要があり、3月に実習施設である静岡県立こども病院の実習指導者会議で、今年度の実習達成度と課題について報告し検討を行った。来年度の実習においては、「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」発令があっても実習受け入れを可能にする方向で、実習施設とのコンセンサスを得た。